

85.11.2

(第3種郵便物認可)

文化



前田 舜敏・画

大波小波

講談社が全十巻の評伝シリーズとして刊行しはじめた「言論は日本を動かす」の第一回配本

「風俗を革新する」(丸谷才一・編集委員担当)が発売された。

待望のシリ

ーズだけに興

味深い内容だが、そのなかでも現存の大インテリ清水幾太郎を論じた袴田茂樹の文章が面白い。袴田は、氣

鋭のソ連研究者

はめる

ア知識人の精神世界と比較

が、果たして清水を論し得るものかと読みすすんだところ、なかなかどうして傑作で、清水の個性をまったく新しい切り口でとらえて

しながら、清水の鋭い感性や時代を先取りする奥義にもかかわらず、そこには芸術的・文化的な感覚が皆無であることを衝いている。

のように芸術や文化のもつリアリティ、あるいはその麻痺的な力とは無縁の人である」と袴田は述べ、それゆえに「彼は日本知識人の典型」なのだ論じている。

ユニークな清水幾太郎論

いる。

る。

清水はかつて、周知の進歩的インテリであっただけに、大方の清水論は彼の転向や変節を論ずるのがつねであったが、袴田は、ロシ

「清水は鋭い知性をもった社会学者であり啓蒙知識人ではあるが、本質的な意味での『文化の人』ではないはずである。

く、大部分の日本型知識人

そういえば、清水ほどのインテリジェンスの持ち主でありながら、彼がパーティーで歌うのは、日本演歌の典型「愛染かつら」であることを知る人はかなり多いはずである。

(東京高校同窓生)